

病児・病後児保育事業の見直し(案) に関する各委員からの意見について (地域子育て部会)

平成30年1月23日

各委員の意見と対応方針について

【各委員からの意見】

- ・保護者からのニーズは増えてきたと思う。保育園からの呼び出しで保護者が子どもを迎えに行き、祖父母が看るケースから祖父母が仕事をしているので祖父母に頼れないケースに移行しているように思う。
- ・出産直後、仕事復帰をしなくても母親自身の体調不良や遠隔地から赴任している家族等は当事業の存在は不可欠。内容的にも2,000円までサポートしてもらえれば、安心して仕事にも取り組める。そのような意味では需要に対して上限をあげる必要があると思う。ただ、数を増やせばサポート側の質の低下も考えられるので、その対策は重要。
- ・地域的な観点から北部にこういう施設が無いことに不公平感がある。北条地域は小児科も減ってきていることから住民も不満を持っているようだ。
- ・共働き世帯の増加と共に需要も増えるので、今回の見直しは大変重要だと思う。同時に、新規の医療機関の開拓も期待したい。
- ・利用したいと思ったが、勤務先や自宅が離れているなど利用することが現実的ではなかったため、潜在的な利用希望者も多いだろうと感じている。
- ・実際に利用したことがある人の中には、検査などで半日以上かかってしまい、結局仕事に行けなかったということも聞いたことがあるので、かかりつけ医との連携は出来ないのかと思う。
- ・病児・病後児保育事業を中間見直しの対象としたのは良いと思う。ニーズの高い事業なので、量の見込みはかなり増えると思うが、確保の内容が7,800で十分なのか。「実績から柔軟な受け入れによる増員を見込む」という部分が気になる。病院が無理をしているという意味ではないのかもしれないが。
- ・受入れ側の柔軟な対応等、計画の(増員の)見直しは大変良いことだと思う。ただ、委員会でも繰り返し言われているとおり、見込みが増えて、実数値が100%超えたから良いというのではなく、使いたい人が有効に使えているかという視点が、定量的に出せない分、丁寧な発信が必要だと思う。
- ・常連の方や情報収集が得意な人だけが使える制度ではなく、広く実数として増えるようにしていただきたい。
- ・利用者の声を発信したり、企業の人事担当者に丁寧に伝えるなど、広く啓発することが望まれる。

【市としての考え方】

- 病児・病後児保育事業実施にあたっては、看護師や保育士の職員配置基準を満たしたうえで、スペースを確保するなど、適切な基準を順守してもらっている。

各施設では、上記の基準を守りながらも、積極的な受け入れを図っており、人員や余裕スペースを確保するなど、柔軟な対応をしているところ。

受け入れの拡大を図りながらも、適切に事業を実施していくため各施設が基準を遵守するよう指導していく。

- 見直し案にあるとおり、今後も利用ニーズが高く、地域的バランスなどを考慮しながら事業の提供体制を確保していく必要がある。

平成28年度は松山市内北部の小児科医を個別に訪問し、事業説明を行うなど新たに市内の小児科で事業が実施できるよう、丁寧な呼びかけを行っている。

今後も、医師会を通じて呼び掛けるなど、積極的に働きかけていく。

- 事業の周知にあたっては、子育て支援課等でのパンフレットの配布やホームページの掲載など既存の方法を活用することに加え、パンフレットの配布先や、情報の掲載内容を工夫するなど、丁寧な情報の発信に努める。